

GREEN AID 真鶴2023「ユースコンサート」

～海と森に育まれた僕たちの心を歌いたい～



今年で37回目を迎える「GREEN AID 真鶴」は、音楽芸術を通じて自然環境に対する意識の向上を図ることを目的としたチャリティコンサートです。

「ひかり輝く海、樹齢350年余の木々が生い茂る真鶴の小林」この素晴らしい自然環境の中で、その恵みに感謝する心と自然に対するマナーの向上を私たちの大好きな音楽で伝えたい、そして次代につなげたいと考える、「一人ひとりができることから始めよう」そんな思いから始めたコンサートにぜひお越しください。

GREEN AID 真鶴 コンサート

◇日時

9月24日(日)
午後1時～7時30分

◇場所

お林展望公園
(小雨決行、荒天の場合は管理棟で開催)

◇内容

趣旨に賛同するさまざまなミュージシャンたちが、野外ステージで素敵な演奏を聴かせてくれます。当日会場では、真鶴のお林を守るための「みどり基金」への募金を行っています。そので、演奏を聴いてアーティストからの熱いメッセージを受け取ったら、ぜひ募金をお願いいたします。

□問い合わせ

教育課
☎内線441

予告編

広報で連載はじめます！

まちづくり条例 施行30年記念 誰もが参加できる「美の基準」

ご存じですか？

今からさかのぼること30年前。町は、真鶴町まちづくり条例を施行しました。まちづくり条例はルールに基づくまちづくりを目指し創られ、これまで【美しいまちづくり】に取り組んできました。条例の中には、真鶴町の美しさを導くためのルール、真鶴の生活風景の作法が「美の基準」というデザインコードとしてまとめられています。

どこか懐かしいと感じる町並みが残る真鶴。

「美の基準」をきっかけに移住をしたり、足を運ぶ方々がいるほど、町外からも注目されています。

条例施行30年を迎える今年度、記念事業を予定しています。また、町民の方々による自主的な「美の基準」を巡るさまざまな活動も行われています。

誰もが参加できる「美の基準」。協働で考え続け、美しいまちづくりを実践していきましょう。

次号より、コラム・記念事業等のイベント情報を掲載します。どうぞ楽しみに！



美の基準デザインコードブック

今月より連載開始 //



誰もが参加できる

「美の基準」

真鶴町まちづくり条例施行30年を迎える今年度、記念事業を予定しています。
また、町民の方々による自主的な「美の基準」を巡るさまざまな活動も行われています。
美しいまち真鶴を、みんなで創っていきましょう。

基本のおさらい

真鶴町
まちづくり条例
(通称:美の条例)

— 土地利用規制基準

— 建設行為の手続き

— 「美の基準」・・・「真鶴らしさ」を守り育てていくためのデザインコードブック
美しい町真鶴をつくりあげてきた作法を「ルール」化したもの

キーワード

美しさを形づくる言葉

「小さな人なまり」

解決法

工夫やこれから行うべき提案

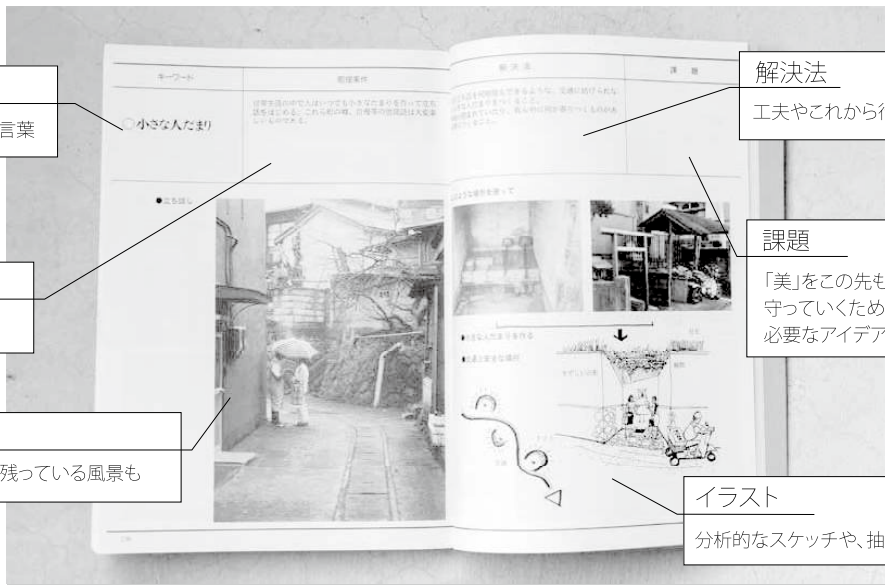
課題

「美」をこの先も
守っていくために
必要なアイデア

イラスト

分析的なスケッチや、抽象的な図式

「美の基準」は強制されるものではなく、
みんなで創っていくものです。従ってこの
「美の基準」には誰もが参加できます。
(『美の基準』3頁記載)



(参考:『真鶴手帖』)

町民リレーコラム

ミカン畑と「美の基準」

松本 茂(松本農園)



今年で「美の基準」が制定されて30年が経つという。改めて「美の基準」を読んでみる。私なりに解釈すれば美しさの物差しであり、物差しで測るものは真鶴らしさと言う事になろうか。ありふれた日常の生活や人々が長い歴史の中で築き上げてきた風景の美しさである。「美の基準」には数値的目標はなく、いたって概念的である。数値的に規制された社会の中で生きて来た私にとっては不安でもあるが、それ以上に新鮮であり魅力的にも見える。

私はミカン農家である。相模湾を望むみかん畑は真鶴町の生活風景の一つではないかと思うのだが「美の基準」では多くを語っていない。そこでミカン畑から見た「美の基準」を考えてみたい。

ミカン畑の四季折々の風景、相模湾を望む段々畑は百年以上にわたって変わらぬ眺めである。その眺めを維持しているのは四季を通しての農作業である。猛暑の中で今年2回目の草刈りが終わった。除草剤を使わず自然のサイクルを生かした草生栽培は環境にやさしい。私は背丈まで伸びた草を刈る。私の後ろには刈られた草が横たわり、数日もすると褐色へと変化し枯草の匂いが心地いい。草はやがて土壌中の微生物に分解され肥料としてミカンに還元される。毎年繰り返される農作業において、みかん畑の景観は維持されて来た。これも「美の基準」として誇れる一つではないかと私は思う。

イベント情報

●美の基準week開催

11/26(日)～12/3(日)

場所:コミュニティ真鶴

上記の8日間、今昔の写真展やまちあるき、座談会、子供も参加できるワークショップなどを開催します!詳細は来月号に掲載します。

●九州大学嶋田教授(行政学)に聞く「美の基準」
10/29(日) 14時～16時 コミュニティ真鶴
主催:まちづくり審議会作業部会自主ゼミ
問合せ:まちづくり課(多田・石井) ☎内線344

●「美の基準」を読む会(全4回予定)
第1回:10/22(日) 10時～12時 コミュニティ真鶴
主催:「美の基準」を考える会
問合せ:kojimacco4649@gmail.com(小島)
※詳細は検討中です。



先月より連載開始 //

□問い合わせ まちづくり課 ☎内線344

第2回

誰もが参加できる

「美の基準」

真鶴町まちづくり条例施行30年を迎える今年度、記念事業を予定しています。
また、町民の方々による自主的な「美の基準」を巡るさまざまな活動も行われています。
美しいまち真鶴を、みんなで創っていきましょう。

図書館で読めます！

「真鶴町まちづくり条例30周年
記念コーナー」はじめました！

美の基準デザインコードブックは
もちろん、条例ができるまでの話、
作成時の参考文献、「まちづくり発
見団」成果報告書、条例施行後に
掲載された雑誌、大学の研究論文
など貴重な資料を並べました。
ぜひご覧ください！



図書館入って左、受付カウンター前です。
館内で自由に閲覧できます。

「美の基準」は強制されるものではなく、
みんなで創っていくものです。従って、この
「美の基準」には誰もが参加できます。
(『美の基準』3頁記載)

町民リレーコラム



美の基準って凄いんです！

亀川 洋（有限会社亀川石材店4代目）

真鶴町の皆様、美の基準ってどう思っていますか？「美の基準って真鶴に住んでいるから名前くらいは知っているけど、恩恵が無いし、よく分からないわ。町の良い所は生まれてからそもそもあるものだし、知ったところで面白くないわ」。なんて昔から住んでいる方の声が聞こえてきそうですが、私自身も47年住んでいながら美の基準の価値を知ったのはたった5年前のことでした。真鶴町は約30年前から、引き継がれてきた懐かしい港町の生活風景を保全していくため、真鶴の美しさがまとめられた「美の基準デザインコードブック」を作成し、美の町づくりを進めています。「美の基準」を作るにあたって、建築家、弁護士、都市計画家に協力を仰ぎました。その際に参考にしたのが、クリストファー・アレグザンダーが提唱した「パターン・ランゲージ（簡単に言うと美しい町づくりのコツ）」、チャールズ皇太子の「英国の未来像 建築に関する考察」、美の基準ができる前に行われた住民による地域資源の掘り起こしイベント「まちづくり発見団」の成果報告書です。これら美しい町にするためのコツを活用し、固有の美を拾い上げて完成したそうです。

「条例なんて家を建てる人の話でしょ。住んでいる人には

関係ないわ」。住んでいるだけだと恩恵も無いと思うところなのですが、この美の基準が無かったら開発が進み、高層マンションだらけになっていたらとても悲しい、残念な気持ちになっていたと思います。町の景観が保たれているのは美の基準が景観を守った、美しい真鶴の開発を止めた条例があったからなんです。それって凄くないですか！美の基準が素晴らしいと共感し、移住される方が沢山いて、新しいお洒落なお店が出来て楽しい町になってきたり、美の基準を愛で、真鶴に来て地域の人々と多様に関わる関係人口の方が増えているのが私はとても嬉しいです！「美の基準って価値のあるものなのね。全然知らなかったけどこれから大事にするわ！」という方がどんどん増えるといいなと思います。11月には、美の基準weekが開催され、様々なイベントが開催されます。是非この機会に興味を持っていただき足を運び、美の基準のことを知ってください。知らない人にも教えてあげてくださいね！ちなみに私が好きな美の基準のキーワードは《地の生む材料》です。これは小松石のことですが、小松石の原石販売をしている私にとって一番愛着のあるキーワードです（笑）

記念イベント開催！

真鶴町まちづくり条例施行30年記念

美の基準week

美の町真鶴のこれからの形を探る8日間

11/26 日
～12/3 日

コミュニティ真鶴2階
で開催！



カメラを持って町を歩く 「まちづくり発見団」

美の基準のキーワードや写真には、当時の町民が「まちづくり発見団」という町の探検をして見つけたものが散りばめられています。30年経った今あらためて、新しい町の美しさ・新しいキーワードを見つけに行きましょう。

30年前の
発見団報告書は
図書館で
読めます！

11/26 日

1班：10時～正午

2班：13時半～15時半

ゲスト 建築家池上修一さん

コミュニティ真鶴集合です。
歩きやすい服装でお越しください。カメラはご持参又は
先着順で貸出し可能です。
(協力:OMデジタルソリューションズ(株))

新たな取組みを聞く 「美の町の今 トークフェス」



町内で活躍されている様々な方を招いて
連続トークセッション。最近の良い流れを
お話いただきます。

12/3 日

トーク1「まつり」 13時半～15時

トーク2「産業」 15時半～17時

トーク3「場づくり」17時半～19時

各回のゲストは調整中です。お楽しみに！

大掃除と手直し 「コミュニティ真鶴 を皆でお手入れ」

無料

12/2 土

10時～正午

子どもからお年寄りまで
誰でも参加できます。
軍手、動きやすい服装で
お越しください。



今昔の 「真鶴写真展」

無料

会期中毎日9時～17時オープンです。



昔の写真を見ながら 「美の町を語るお茶会」

無料

タンスの奥に古い写真が眠っていませんか？ぜひお持ち
寄ってください。温かいお茶を淹れてお待ちしております。

11/29 水

10時～正午、15時～17時

上記の時間内いつでも、お好きな時にお越しください。



詳しい内容、参加費、お申込み方法などは
決まり次第ホームページ等で発表します。

☐問い合わせ まちづくり課 ☎内線344



真鶴町ホームページ



真鶴町公式LINE



真鶴町公式X



10月～4月 連載中 //

□問い合わせ まちづくり課 ☎内線344

第3回

誰もが参加できる

「美の基準」

真鶴町まちづくり条例施行30年を迎える今年度、記念事業を開催しています。
また、町民の方々による自主的な「美の基準」を巡るさまざまな活動も行われています。
美しいまち真鶴を、みんなで創っていきましょう。

記念イベント開催中

11/26 日

～12/3 日

コミュニティ真鶴
2階

美の基準 ウィーク

会期中毎日9～17時、町の写真を展示中。
お気軽にお越しください。無料です。

12/2 土

コミュニティ真鶴お手入れ
& 小松石宝探しゲーム

12/3 日

トークイベント
美の基準とこれからの30年

12/3のみ
予約制

予約方法や
詳しい内容はこちら



映像制作しています

美の基準 ムービー



美の基準に記されている町の生活
風景を受け継いでいくため、条例制
定の経緯や現在の町の風景、いま町
で起きている良い流れを、わかりや
すくお伝えする映像を制作中です。
完成後、試写会を予定しています。
お楽しみに！

クラウドファンディングに
ご協力お願いいたします



「美の基準」は強制されるものではなく、
みんなで創っていくものです。従って、この
「美の基準」には誰もが参加できます。
(『美の基準』3頁記載)

町民リレーコラム



次の30年に向けて…「美の基準」に参加中！

小島まき子(まなっこハウス 家守)

私が東京都心から真鶴町に引っ越してきたのは約2年前のこと。初めて訪れたときに、どこか懐かしい感じのする港町の風景に魅了され、干物のおいしさに感動し、何度か通うなかで町の人々との交流も深まり、半ば勢いで引っ越しを決めました。シェアハウス(通称「まなっこハウス」)で3人暮らしをしています。

「美の基準」のことを知ったのは、3度目に真鶴を訪れたとき。それまで何となくいいなあとと思っていた町の景色が、実は「美の基準」によって守られてきた・つくられてきたと知り、感銘を受けました。強く印象に残ったキーワードは「小さな人だまり」と「実のなる木」。人口が少ない町だからこそ、ちょっとした人だまりに出会うとほっこりします。また、私は柑橘類が大好きなので、町中に実のなる木があるなんて夢のようです。すでに真鶴が気に入っていましたが、「美の基準」を知ったことでさらに惹かれ、真鶴への引っ越しに弾みがついたと言っても過言ではありません。

真鶴に住み始めてから1年半。「美の基準」に興味を持ち、ブックを入手したものの、ひとりでは読み込むことができないまま…。そこで、自分でコツコツ学ぶよりも、詳しい人にわかりやすく教えてもらえたら、というズルイ？考えのもと、「『美の基準』を考える会」を立ち上げました。制定に関わった方、運用に携わっている方、建築関係の方など、「美の基準」に“参加”されている方々が集まり、情報交換や企画プレストなどを行っています。

現在、「美の基準」をじっくり読み解く会を開催中。69のキーワードについて、さまざまな視点から意見を出し合い、対話を行うことで、「美の基準」への理解を深めることを目指しています。その先にあるのは、真鶴での暮らしを豊かなものにし、よりよい町をつくっていくこと。「美の基準」はそのヒントやツールになると思っています。真鶴町の未来に向けて、「美の基準」をどう生かしていけるのか、今後みなさんと一緒に考えていきたいです。



10月～4月 連載中 //

□問い合わせ まちづくり課 ☎内線344

第4回

誰もが参加できる

「美の基準」

真鶴町まちづくり条例施行30年を迎える今年度、記念事業を開催しています。
また、町民の方々による自主的な「美の基準」を巡るさまざまな活動も行われています。
美しいまち真鶴を、みんなで創っていきましょう。

イベント続きます！

知ろう！遊ぼう！真鶴かるた

1/27^土

10:00～12:00

申込不要／無料／大人も子どもも
町民センター 3階講堂



真鶴町の歴史・文化・名所・産業・特産などを
詠んだ「真鶴かるた」。その中に、「美の基準」
に関する札があることをご存じですか？

制作に関わった方をお招きして、制作までの
お話を聞いたり、かるたの文章や絵を楽しむ
時間を取りながら、かるた遊びをします。

お気軽に、お誘いあわせの上お越しください。

(問い合わせ先:まちづくり課／多田・石井)



「美の基準」は強制されるものではなく、
みんなで創っていくものです。従ってこの
「美の基準」には誰もが参加できます。
(『美の基準』3頁記載)

町民リレーコラム



まちへのラブレター

仁志しおり(写真家、真鶴カメラ主宰)

みなさまこんにちは。

真鶴を拠点に写真家として活動をしています、仁志(にし)しおりです。真鶴には4年前に移住をしてきました。わたくしが真鶴を知ったのは、『美の基準・デザインコードブック』を友人に見せてもらったことがきっかけでした。6年ほど前のことです。“まちづくり条例”と書かれたその本を、わたしは建築法が書かれてあるのかと思いページを開きました。しかし堅苦しい数値は一切出てきません。代わりに、「小さな人だまり」「さわれる花」「実のなる木」など文学的な言葉で真鶴らしさが表現されています。そのどれも決して華やかなものではなく、ありのままの普段の風景だということが伝わってきました。自然のランドスケープに溶け込むまちなみの中で、季節と共に生活をする人々の姿が思い浮かびました。そして、それが「美しさ」だから大事にしていこうという姿勢にとっても感動したことを覚えています。自分が忘れていた小さな日常の幸せを思い出させてくれたような気がしたからです。

「美の基準」は高度経済成長期に、リゾートマンションの建設ラッシュに抗うために制定されました。当時はマンションが建つ方がまちが潤うのではないかと思う人もいたかもしれませんが、しかし30年経ったいま、当時と変わらない町並み、自然、昔ながらの温かいコミュニティは、このまちにしかない価値であると感じます。そしてそれは、インターネットが普及し、サービスも物も簡単に買えるようになった現代において、とても大切なことのように感じます。一方で、現在、日本は人口減少が定着しています。真鶴でも空き家や商店街のシャッターが目につき、産業は低迷しています。まちは新たな荒波に抗わねばならない時期にきています。

先日「美の基準」施行30周年を記念したイベント「美の基準ウィーク」が開催されました。私自身もまた「美の基準」と向き合う機会となり、改めて「これはまちへのラブレターだ」と感じました。美の基準は時代に合わせて更新されるべくつくられています。わたし達は、今、何を大切に、何を变えていくべきなのか問われている気がします。日常の暮らしの中に溢れる地域愛が荒波に打ち勝てるのかどうか。次の30年に向けて、このまちのみなさんと一緒にトライしていきたい気持ちです。

イベント開催しました！

写真でふりかえる 美の基準ウィーク

まちづくり条例施行30年を記念して、コミュニティ真鶴を会場に8日間連続でイベントを開催しました。

美の基準が生まれる前の昔の真鶴と今の真鶴を写真で実感したり、町民同士の対談では課題と期待を共有し、町の未来を考えるなど、大盛況のイベントとなりました。



カメラを持って町を歩く
「まちづくり発見団」

11/26

真鶴カメラさんによる案内で町を歩き、今の真鶴の良いところを発見し撮影しました。



昔の写真を見ながら
「美の町を語る
お茶会」

11/29

お林や海や町の風景を大切にしてきた
想いが、新たな世代へバトンタッチ
されました。

今昔の
「真鶴写真展」

写真をご提供いただいた皆様、ご協力ありがとうございました。



ワークショップ
「コミュニティ真鶴を
みんなでお手入れ」

12/2

美の基準をもとに建設されたコミュニティ真鶴の
手摺や花壇、ビー玉標識などを補修しました。
同時開催した石材組合青年部による「小松石を探せ！」
ゲームも子どもたちに好評でした。



トークイベント
「美の基準とこれからの30年」 12/3

「まつり」「地の生む材料」「いぶき」美の基準に出てくる
3つのキーワードをテーマに町の未来について考えました。



10月～4月 連載中 //

□問い合わせ まちづくり課 ☎内線344

第5回

誰もが参加できる

「美の基準」

真鶴町まちづくり条例施行30年を迎える今年度、記念事業を開催しています。
また、町民の方々による自主的な「美の基準」を巡るさまざまな活動も行われています。
美しいまち真鶴を、みんなで創っていきましょう。

注目されています！

多くの大学が研究・視察に

- ・ 明治大学（※明治大学の研究成果は、2月末～3月初旬に町内で展示予定です！）
- ・ 法政大学
- ・ フェリス女学院大学
- ・ 関西大学
- ・ 国際基督教大学
- ・ 静岡大学
- ・ 芝浦工業大学 などが今年度来訪。

まちづくり、建築、社会学などの分野で、真鶴が学びの場に使われています。学生さんから、町民のみなさんが温かいという感想をよくいただきます。ご協力ありがとうございます。



令和5年9月 明治大学視察時（撮影：真鶴カメラ）

（問い合わせ先：まちづくり課／多田・石井）

「美の基準」は強制されるものではなく、みんなで創っていくものです。従って、この「美の基準」には誰もが参加できます。（『美の基準』3頁「記載」）

町民リレーコラム



今まで知らなかった美の基準

松木 一平

真鶴町の皆さまこんにちは！地域おこし協力隊としてUターンしました松木一平と申します。一昨年に帰ってきてすぐに喫茶店を開業しました。観光協会内の施設にて「ペペコーヒー」という喫茶店の店主としても活動しております。

まず、なぜ町にUターンしてきたのか？からお話しさせていただきます。たまたま帰省したときに、昔の記憶だと多くの人々が賑わっていた大道通り商店会がほぼシャッター通りになっているではありませんか。もしかしたら生まれ育った故郷が無くなるかもしれない。という危機感というか恐怖感から真鶴を盛り上げたいという一心で町について調べることにしました。今まで育った町ではありますが、正直、お恥ずかしいことに美の基準というまちづくり条例は大人になって初めて知りました。調べていくうちに美の基準に記述されているパタン・ランゲージや抽象的な表現方法に感銘を受けてどっぴりと美の基準と真鶴に沼ってしまいました。（まだまだ勉強中ですが）世界に誇れるであろうコンテンツに可能性を感じたと同時に、真鶴で何かしたいという気持ちが強くなり、まずは自分から手を動かそうと、真鶴港

にある元割烹料理店で喫茶店を開業しました。それから暫くして喫茶店にお客さんが来てくれるようになり、昔から住んでいる方々とお話を聞いていると、「美の基準なんて学校で習っていない」、「なんだそれは？聞いたことない」、「その基準で我々の生活は豊かになっているのか？」など現地のリアルな声も聞こえてきました。

一方で、ここ最近では喫茶店に学生達がフィールドワークに来て美の基準について調べて取材にきてくれたり、観光にきた方に声をかけると、町並みが素敵で観光にきました。美の基準の本も購入済みです。等々。美の基準に対する内外からの視点はそれぞれ違うようでまたそのギャップもあって良いのかなと思っております。変化を望む人と望まない人、町を歩いてお話を聞いているとさまざまな声が聞こえてきます。個人的には今住んでいる方々の営みの風景は大きく変えないで皆が豊かに暮らしていければ良いかなと思っております。それが美の基準によって守られてきた風景だと思っているので。

ですが良き風習や文化を伝統で終わらせず、継承していく必要があると思います。美の基準というまちづくり条例、そして真鶴という町は世界に誇れると思っておりますので。真鶴生まれ、真鶴育ちとしてできる限り地域振興に努めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします！！



10月～4月 連載中 //

□問い合わせ まちづくり課 ☎内線344

第6回

誰もが参加できる

「美の基準」

真鶴町まちづくり条例施行30年を迎える今年度、記念事業を開催しています。
また、町民の方々による自主的な「美の基準」を巡るさまざまな活動も行われています。
美しいまち真鶴を、みんなで創っていきましょう。

盛り上がりました！

真鶴かるたに親しむ



「真鶴かるた」には町の風景や歴史が描かれ、「この町の 姿支える 美の基準」という札があることから、30周年事業の一環として1/27に真鶴かるた大会を開催しました。参加者からは「行ったことのない場所をたくさん知ることができ、町をお散歩しているような気分で楽しかった」という声も。多くのご参加、ありがとうございました。みなさんも、「真鶴かるた」で“真鶴らしさ”を感じてみてはいかがでしょうか。

「美の基準」は強制されるものではなく、みんなで創っていくものです。従って、この「美の基準」には誰もが参加できます。
（『美の基準』3頁「記載」）

町民リレーコラム



まちを歩くこと

藤井 明香(さやか) 一級建築士

6年前のちょうどこの時期、町の施設「くらしかる真鶴」でお試し暮らしをしていました。滞在初日に用意されていたのが、“まちあるき”というウォーキングツアー。お試し暮らし中の生活に困らないように、と地元の商店や主要な施設を案内してもらうものでした。行く先々で出会った町の方々が親切で、歓迎ムードだったことをよく覚えています。

ほどなく実感したのが人との繋がりがやすさでした。まちを歩いていて、先日知り合った人に再びバッタリ出会い交流が深まる、という体験がよく起こりました。“まちあるき”で紹介された商店の方々が顔を覚えてくださったことも嬉しかったです。気づけば真鶴に友人と呼べる人が増え、縁あって家も見つかり、移住に至りました。

人との距離が近い一方、ひとりになりたい時は御林も海も美術館もある…こうした環境を心地よく感じています。小さな半島という地勢が影響して、全体を把握できるように思えるからでしょうか、まちを歩いていると勝手ながら「私のまち」という帰属感と愛着が湧いてきます。

建築の仕事をしているので、移住前に真鶴に興味を持ったときから「美の基準」のことは調べていました。個人的に「美の基準」は、長年積み重ねてきた町の風景の良さを建築的にどうすれば持続可能なのか？が言語化されているデザインコードブックと捉えています。でもちょっと難しいのは、デザインの答えはひとつではなく文章問題のように全体を読解して自由回答を求められる点。仕事仲間や友人で「美の基準」に関心がある方が遊びに来た時には、まちを歩いて紹介することにしています。まちを歩くことが、美の基準に描かれている町の風景の良さを読解し、この先どうしたら良いのかを考えることに繋がると考えています。

5年住んで（歩きまわって）実感しているのは、寿命が迫る建築への危機感です。「美の基準」があっても30年間で失われた建築は多く、何とか保てた風景も今、手を施さないと朽ちてゆきます。有志の仲間で「真鶴空き家勉強会」を開催し、古い家々を想いのある方に、建物も長生きできる形で修繕し住み継いでもらえるようにと活動をしています。勉強会の中でも空き家ウォーキングツアーを開催したりと、私なりにまちを歩くことを大切に、続けていきたいと思っています。



連載、最終回です

□問い合わせ まちづくり課 ☎内線344

第7回

誰もが参加できる

「美の基準」

真鶴町まちづくり条例施行30年を迎えた昨年度、記念事業を開催してきました。
また、町民の方々による自主的な「美の基準」を巡るさまざまな活動も行われ、
新たな「いぶき」が生まれ始めています。
これからも美しいまち真鶴を、みんなで創っていきましょう。

春の散歩に…

ウォーキングで再発見

生活していると当たり前の風景となり気づきにくいものですが、観光客になった気持ちで町を歩いてみると、「美の基準」を実感・再発見できるかもしれません。



<https://www2.wagmap.jp/manazurutown/Portal>

『幸せをつくる真鶴時間マップ』
観光・景勝地マップ中のウォーキングコース



<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/m2g/kenseipj/manaduru.html>

『県西ウォーキング』
No.58～No.63の6コースが真鶴町

「美の基準」は強制されるものではなく、みんなで創っていくものです。従ってこの「美の基準」には誰もが参加できます。
（『美の基準』3頁「記載」）

町民リレーコラム



「美の基準」 ～時を超えて深さ増す～

青木 和美（寺子屋代表）

「美の基準」の制定から早くも30年が過ぎ、当時の経過を感慨深く思い出している。地元で仕事をしていたため、町の主催するまちづくり関係の集まりにはよく参加していた。

「まちづくり発見団」もその一つである。町の中を歩き回り、町民目線で真鶴ならではの生活風景を発見するのは楽しいことだった。参加者皆が嬉々としてたくさんの発見を持ち寄り、地図上に書き込んでいったことを覚えている。その活動が「美の基準」につながることにになるとは、当時は想像もしなかった。

1987年に制定された所謂リゾート法によって静かな町は一変した。真鶴の景観を求めてマンション業者が役場に押しかけ、当時の町長が辞任したことで、私達町民は初めて町の危機を知ったのだ。真鶴の景観は、長い間皆が生活の中で守ってきた作法や配慮の上に成り立っている。しかし、業者にはそんな配慮など問題ではない。町民は反対の声を上げ、マンション建設に反対する町長（三木氏）を選んだ。そして、町は「まちづくり条例」の生みの親、五十嵐氏と出会う。

1993年、町の暮らしと景観を守るため、真鶴独自の「美の基準」が誕生した。

30年目を迎えた昨年、「美の基準」を読む会に参加させて頂き、改めて「美の基準」と向き合う機会に恵まれた。年齢を重ねたためか、「美の基準」の持つ精神の深さを改めて感じ、伝えていくことの大切さを認識した。とはいえ、「美の基準」は突然表れたものではなく、元々町民の暮らしの中で受け継がれてきたことが明文化されたものだとは私は思う。よく町の人は「美の基準」を知らないと言われるが、「美の基準」ができる前からお互いに配慮した生き方をしてきたからこそ、この景観があることを忘れてはならない。心地よさや居心地のよさを感じる空間には、見えないけれど人々の配慮が溶けこんでいる。

30年経っても「美の条例」は色褪せることなく、そこに宿る精神が今も多くの人を惹きつけている。私たちが真鶴らしい生き方を続け、「美の基準」を大切に思う人がいる限り、その普遍的な部分は残っていくことと思う。

パタンランゲージの中の「小さなだまり」は私の好きな言葉の一つである。ふり返れば、子どもの頃からいつも人だまりの中にいて、今なおその中にいる。これからも「小さなだまり」を大切に、真鶴ならではのつながりの中で自分ができる活動を続けていきたいと思う。

「美の基準」30周年事業ふりかえり



10月

広報真鶴「美の基準」連載開始

- ・イベントお知らせ
- ・町民リレーコラム



これまでの広報真鶴
連載記事はこちら！
PDFにまとめました。

11月

「美の基準」ウィーク 開催

- ・カメラを持って町を歩く「まちづくり発見団」
- ・昔の写真を見ながら「美の町を語るお茶会」
- ・今昔の「真鶴写真展」
- ・ワークショップ「みんなでコミュニティ真鶴をお手入れ」
- ・「小松石を探せ！」ゲーム
- ・トークイベント「美の基準とこれからの30年」



12月

1月

真鶴かるた大会 開催

2月

「みんなでまちをつくる」真鶴カメラと明治大学建築学科の一年 開催（主催：真鶴カメラ、協力：明治大学、まちづくり課）

写真提供：真鶴カメラ

2/25～3/2の一週間、情報センターを中心に
展覧会を開催しました。学生達の真鶴実習の
様子を写真で記録したものを始めとして、真鶴
カメラさんがこの一年間撮影してきた真鶴町の
魅力的な写真が展示されました。



「たくさんの学生さんがこんなに真鶴のことを
考えてくれてるのは嬉しいね」「このような視点
で自分の街を見たことがなかったので新鮮」
「建築が身近に感じられてまちづくりに興味が
出た」などの感想が寄せられました。
たくさんのご来場ありがとうございました。



3月

申し込み 受付中！

小松石を探せゲームも同時開催！
協力：石材組合青年部



「美の基準」ムービー試写会

真鶴町ならではの風景を受け継いでいくため、
条例制定の経緯や現在の町の風景、町の人の
声をお伝えする映像を制作しました。

申し込みは不要ですが、なるべく氏名、人数を
電話かメールで担当：まちづくり課多田/石井まで
mac_toshikeikaku@town.manazuru.kanagawa.jp

4/27^土 14:00～14:30
15:00～15:30

20分程度の映像になります。同じ映像を
2回上映しますので、ご都合の良い時間に
合わせて、ぜひお越しください。

コミュニティ真鶴 2階会議室
無料／大人から子どもまで



4月